



実践産業Ⅲ：プロジェクト・マネジメント (Project Management)

グリーンアジア国際リーダー教育センター 助教
折本 裕一

H27年度の実践産業Ⅲ (Industrial Systems III)は昨年度に引き続き、一般財団法人エンジニアリング協会の講座として、千代田化工建設株式会社が担当して開講されました。企業で実際に活躍されている方に講義をお願いすることで、より効果的なGA教育を目指す本科目では、千代田化工建設株式会社において30年以上にわたって海外プロジェクトに携わっておられる、笛田悦秀氏(プロジェクト工務ユニットコストエンジニアリングセクション・セクションリーダー)に講師を担当頂きました。本講義では、プロジェクト・マネジメント(PM)について、そのコンセプト、必要とされるスキル、プロジェクトを成功に導くための方法など、PMの基礎から実践までを1日に2コマずつ計4日間の集中講義(1単位科目)として実施頂きました。講義は全て英語で行われ、国内生15名、海外生10名、1~3期生にまたがる計25名のGAコース生が本講義を履修しました。4日間のうち、2日間は筑紫一伊都キャンパス間をTV会議システムでつなぎ、残りの2日間は全員が顔を合わせての講義となりました。

第1回目(4月17日)には、プロジェクトとは何か?そして、PMとは?その言葉の定義から始まり、プロジェクトを遂行するための組織づくりや、その中での管理者の役割などを学びました。第2回目(5月22日)はまず、学生が国内・海外生の混合チームを作り、ある条件下での最適なプラント内設備配置の問題を考えるケーススタディの実習を行いました。安全かつ作業工程の流れに沿った効果的配置について、チーム内で個々の意見を戦わせつつ、最後にはチームとしての一つの答えにたどり着きました。その後、Work Breakdown Structure(WBS)という作業分解の概念を学びました。第3回目(6月26日)には、プロジェクトをどのようにコントロールするか、提示された住宅建設に必要な期間と資金についてエクセルや電卓を駆使してスケジューリングを行うケーススタディを行いました。第4回目(7月10日)には、前回に加えさらに、特定の工程で作業の遅れが出た場合の対処法など、より実践的なケーススタディを実施し、マネジメントの重要性を体験しました。また、千代田化工建設のカタールでの巨大LNGプロジェクトについて、どのような挑戦であったか、現場の雰囲気がわかる数々の映像資料とともに説明を受けました。

本講義を通して学生は、海外での巨大プロジェクトが我々の生活と密接に係わっており、その中でプロジェクト・マネジメントが非常に重要な役割を果たしていることを認識するとともに、様々な資料や体験談、ユニークかつ実践的な実習によってプロジェクト遂行における苦労や遣り甲斐について学びました。短い期間でしたが、実践産業の名にふさわしい、学生にとって新たな視点が備わる大変貴重な機会となりました。



実践産業Ⅲ "Project Management"

4月17日/筑紫&伊都(TV会議システム)

3限 UNIT-01 "Orientation - Project Management"(Y. Fueda)

4限 UNIT-02 "Project organization and Team building"(Y. Fueda)

5月22日/筑紫

3限 UNIT-03 "Case study of project management"(HRM & Y. Fueda)

4限 UNIT-04 "Scope definition and Work breakdown structure"(Y. Fueda)

6月26日/筑紫&伊都(TV会議システム)

3限 UNIT-05 "Project Control"(Y. Fueda)

4限 UNIT-06 " " "(Y. Fueda)

7月10日/筑紫

3限 UNIT-07 "Actual project execution"(Y. Fueda)

4限 UNIT-08 "Case study for actual Project"(Y. Fueda)

(3限:13:00~14:30、4限:14:50~16:20)

(本実践産業Ⅲは一般財団法人エンジニアリング協会の講座として千代田化工建設株式会社が担当して開講しました)